

平成17年12月1日

# 宮崎大学 工学部化学会会報

No.19

発行  
宮崎大学工学部  
化学会

〒889-2192 宮崎市学園  
木花台西1丁目1番地  
TEL(0985)58-7309(塩盛)  
FAX(0985)58-7323



堀切峠・日南海岸



青島

## CONTENTS

- 本部から…………… 2
- 支部だより…………… 6
- 本部役員から…………… 9
- 特集:河野先生ご退職……………10
- 物質環境化学科だより……………11
- 年次別所感(39年卒,H3年卒)……………15
- みやざきはいま(大災害から復興へ)……………16



## ごあいさつ

会長 村上 悟  
(30年卒)

暑さ寒さも彼岸までとはよく云ったもので、季節は確実に巡り、公園や街路樹の木々の緑がだいぶあせてきたことに気づきます。

会員の皆様には、お元気でご活躍のことと存じます。本年も恒例の第19号化学会会報を発行する事ができましたことは誠に喜ばしい限りです。

今年は大変強い台風14号が9月6日、宮崎県内を暴風雨域に巻き込みながら九州の西の海上を通過、記録的な集中豪雨が各地を襲いました。

宮崎市内は冠水や断水等で、未だ経験した事の無い程の被害を受けました。被害を被られた皆様方には心からお見舞い申し上げます。

一方、去る9月11日は第44回衆院選があり、即日開票の結果、自民が圧勝民主大敗の結果となりました。政治の世界は私共にはよく分かりませんが、政治に限らずどの業界（企業）でも多かれ少なかれ、一生かけても分からない事ばかりの様な気がします。それでも一歩ずつでも歩いて少しでも進むほかありません。お互いに頑張りましょう。

扱て、河野恵宣副会長が本年3月末で退職されました。宮崎大学においては勿論の事、宮崎県の地域産業の発展に多大な功績は極めて大きく本当

に長い間有難うございました。これからは工学部化学会の副会長としてさらなるご盡力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

私事ながら、私も去る6月29日をもちまして宮崎液化ガス(株)を退任いたしました。思い起こせば光陰矢の如く昭和30年に宮崎ガス(株)に入社以来、途中平成七年に宮崎液化ガス(株)に就任しましたが、合わせて足かけ49年の時が刻まれていました。

その間、皆様方には公私にわたり何かとご指導とご厚情を賜り、おかげさまで充実した人生を過ごせました事、誠に有難く厚く御礼申し上げます。今後とも変らぬご芳情を賜りますようお願い申し上げます。

さて、私共の化学会は、支部活動が活動の中心であります。どうか若い会員をどんどん同化して積極的な活動をされますよう期待します。

私も、これからはできるだけ支部活動に参加するよう努力しますので、情報を頂ければ幸甚に存じます。

会員各位の栄えある未来に向うさらなる飛躍、発展を期待いたしますと共に、ご家庭ともどものご健勝をお祈り申し上げ挨拶といたします。

## 本部から

### 理事会報告

理事長 塩 盛 弘一郎  
(63年卒)

会員の皆さん、お元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。今年は、非常に大きな台風が宮崎を襲い、長時間の雨と風で大きな被害が出ました。会員にも被害に遭われた方がおられたとお聞きしています。心よりお見舞い申し上げます。宮崎市の浄水場が水没するという想定外の災害で、大学周辺も断水が1週間ほど続き、水の大切さを身にしみて感じました。毎年台風に襲われる宮崎では、万全の対策がなされているはずでしたが、人間が想定した規模を越えると脆弱であることが露呈しました。また、最近の自然災害はこれまでにない

大規模なものが多く、人類の活動が地球環境に与える影響が反映されているのではないかと感じます。

さて、今年の化学会理事会は6月26日(土)午後6時より市内の東天閣で開催されました。村上会長以下約15名の常任理事の参加があり、(1)平成16年度事業報告、(2)平成16年度会計報告、(3)平成17年度事業計画、(4)平成17年予算、(5)会報No.19の編集内容、(6)役員改選について審議されました。事業報告および会計報告においては、会報発行と予算の状況について意見交換がなされ、会報編集内容の承認をいただきました。役員改選は、

会計が大戸正之氏(平成3年卒)から有馬明美氏(平成9年卒)へ交代し、大戸氏は常任理事へ、また、戸次太道氏(平成7年卒)の常任理事への追加を承認いただきました。以前からすると常任理事は、人数も増えて年齢も若くなりました。次の世代に化学会が存続し発展していくためには、会員の一人一人の化学会を支える気持ちにかかっているとされますが、本部からも化学会の存在を強くアピールする必要があると感じています。

化学会および工学部同窓会関係の動向を報告します。化学会副会長の河野恵宣教授が3月末で宮崎大学工学部物質環境化学科を定年退職されました。約40年にわたりご指導いただきました。本当にありがとうございました。6月11日には退職祝賀パーティも開催され、遠方より多数の参加がありました。また、4月22日には工学部創立60周年記念祝賀会が開催されました。化学会からは日高前会長、村上会長をはじめ役員の方々にも出席いただきました。久しぶりの日高前会長は、非常にお元気そうでした。

60周年記念講演会「先輩から後輩に伝える技術者のこころざし講演会」を10月21日に開催し、岩佐 哲氏(51年卒、ハリマ化成(株)取締役・中央研究所所長)に「工化之妙無窮～パイン(松)ケミカルを活かした接合(つなぐ)科学への挑戦」の講演をしていただきました。学生時代から会社での研究・開発に関する非常に興味深い話でありました。11月11日には物質環境化学科特別講演として野口剛司氏(平成5年卒 双信電気(株))の「経験を活かす

という講演が学部3年を対象に行われました。

工学部同窓会では、会員名簿の発行に向けて住所の確認作業を進めておりますが、個人情報保護の動きの中で発行が難しい状況です。今回は何とか発行にこぎつけたいとしていますが、今後の名簿発行は微妙な状況です。また、来年は5年毎の工学部同窓会総会が開催されます。詳細が決り次第、案内する予定ですが、各学科同窓会からの参加者数が限られますので、参加希望の方は前もって私まで連絡ください。

長年、化学科で教鞭をとられ定年退職されておられた登本 登先生が9月21日にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

会報発行は、会員の会費納入によって支えられてきました。ここ数年は、会員数の増加に比べ会費納入はほぼ一定となっており、会報発行時期に予算が不足し、一時的に借入れして発行にこぎつけている状況です。予算執行は切り詰めていますが、このままでは会報20号をもって会報発行の一時休止、または、会報発行を継続するためには会費値上げのどちらかを実行せざるをえない危機的状況です。来年度理事会の最重要議題です。会費について、ご意見やアイデアをお聞かせください。化学会構成員の一人一人のご協力が是非とも必要です。出費多難の折りとは存じますが、会費納入に皆様方のご協力をお願いいたします。

最後に会員皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## 宮崎大学工学部化学会(本部) 平成16年度会計報告

平成16年4月1日～17年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越	92,100	No.18会報	407,102
預金利息	444,000	会議費	106,418
本部会費	75,000	事務費	10,300
		翌年度繰越	87,280
合計	611,100	合計	611,100

上記の通り報告致します。

平成17年6月26日

本部会計 大 戸 正 之 (代理 塩盛弘一郎)

金銭出納帳、預金通帳、領収証等について会計監査を実施した結果、適切な処理が行われており異議のないことを認め監査報告致します。

平成17年6月25日

本部監査 江 藤 信 幸  
岩 切 重 人

# 宮崎大学工学部化学会会則

**第1条** 本会は、宮崎大学工学部化学会と称し、本部を宮崎大学工学部内に置く。また必要に応じ、支部を置くことができる。

**第2条** 本会は、会員相互の親睦をはかり、会員ならびに宮崎大学工学部物質環境化学科の発展を期するを目的とする。

**第3条** 本会は、次の会員をもって組織する。

1. 正会員

宮崎工業専門学校化学工業科卒業生

宮崎大学工学部

工業化学科卒業生

物質工学科応用化学コース卒業生

物質環境化学科卒業生

宮崎大学大学院工学研究科

工業化学専攻修了者

物質工学専攻応用化学系修了者

物質エネルギー工学専攻応用化学系修了者

2. 学生会員

宮崎大学工学部

物質工学科応用化学コース学生

物質環境化学科学生

宮崎大学大学院工学研究科

物質工学専攻応用化学系学生

物質エネルギー工学専攻応用化学系学生

3. 特別会員

宮崎大学工学部工業化学科、物質工学科応用化学コース、物質環境化学科関係教職員

**第4条** 本会本部に次の役員を置く。

1. 会 長 (1 名)
2. 副 会 長 (2 名)
3. 理 事 長 (1 名)
4. 事務局 長 (1 名)
5. 常任理事 (若干名)
6. 理 事 (若干名)
7. 会 計 (1 名)
8. 監 査 (2 名)

**第5条** 役員は、次の方法により定める。

1. 会長、副会長は、会員の推薦により理事会で承認する。
2. 常任理事は、会員の推薦により、会長が委嘱する。
3. 理事は、各支部より選出された支部長とする。
4. 理事長および事務局長は、常任理事および理事の互選とする。

5. 会計および監査は、会長が委嘱する。

**第6条** 役員の職務は次のように定める。

1. 会長は、会務を総括する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代わる。
2. 理事長は、会務を執行する。
3. 事務局長は本会の事務を分掌する。
4. 常任理事は、理事長を補佐し、会務を分掌する。
5. 理事は支部を代表して本部との連絡にあたる。
6. 会計は、本会の会計を執行し、監査は本会計を監査する。

**第7条** 理事会、常任理事会の運営については、次のように定める。

1. 理事会は、会長が招集し、会務を協議する。
2. 理事会は会長、副会長、理事長、事務局長、常任理事、理事、会計及び監査をもって構成する。
3. 理事会は、委任状を含めて構成員の過半数で成立し、議決は、出席者の過半数の同意を必要とする。
4. 理事会は、年1回以上開催するものとする。
5. 常任理事会は必要に応じて理事長が招集、開催し、理事会の決定に従い、通常の会務を執行する。
6. 常任理事会は理事長、事務局長および常任理事をもって構成する。

**第8条** 役員の任期は1年とし、再選は妨げない。

**第9条** 支部長は、支部における事業の概要および会員の移動等について、毎年4月末日までに報告するものとする。

**第10条** 本会の運営費は、正会員会費(年額1,000円)と有志の寄付をもって充当する。

**第11条** 本会の会計年度は4月1日より始まり、翌年の3月31日で終わるものとする。

**第12条** 化学会会報は、原則として5年毎に発刊する。

**第13条** 本会の会則は、理事会において行うが、出席者の過半数の同意を必要とする。

## 付 則

本会則は、昭和56年5月30日から実施する。

平成元年7月22日一部改正。

平成2年7月14日一部改正。

平成11年6月26日一部改正。

宮崎大学工学部化学会役員名簿

H17.12.1

役職		氏名	卒業年	役職		氏名	卒業年	
本 部	会副	長長	村原	東 京 支 部	支副	清	55	
	"	"	上野		支副	水瓶	満	22
	"	"	惠		"	瀬戸山	章	28
	理事	局長	藤		監	明	孝	31
	常務	局長	盛		計・事務	山松	生	31
	"	"	弘		局事	平原	哲	58
	"	"	一		"	田原	二	26
	"	"	利		"	糸原	明	31
	"	"	明		"	大野	七	32
	"	"	武		"	秋吉	則	32
	"	"	雄		"	山田	昭	33
	"	"	俊		"	杉本	也	38
	"	"	一		"	新原	生	39
	"	"	敏		"	鬼山	明	40
部	"	"	59	"	古藤	勝	40	
	"	"	60	"	太野	光	42	
	"	"	61	"	吹野	忠	44	
	"	"	H1	"	井口	生	46	
	"	"	H1	"	小浜	行	52	
	"	"	H3	"	渡内	彦	57	
	"	"	H3	"	壺村	郎	H4	
	"	"	H4	"	桑原	敦	H4	
	"	"	H4	"	芝本	洋	H6	
	"	"	H5	"	上田	生	H11	
	"	"	H7	支副	大杉	収	43	
	"	"	H8	支副	山本	造	46	
	"	"	H8	"	菊熊	健	40	
	"	"	H9	"	原大	男	46	
宮 崎 支 部	"	"	H10	支副	西村	直	49	
	"	"	H11	"	嶋康	英	50	
	"	"	H12	"	安井	剛	37	
	"	"	H12	"	黒宮	林	37	
	"	"	H13	"	小田	志	45	
	"	"	H14	"	吉浦	元	32	
	理事	(東) 京	斐水	"	三津	政	39	
	"	(名) 古	田井	"	前田	喜	41	
	"	(関) 西	木園	"	有田	彰	45	
	"	(北) 九	園浅	"	岩佐	人	46	
	"	(福) 岡	馬藤	"	芝原	哲	51	
	"	(宮) 崎	有藤	"	田幡	一	53	
	会監	計査	江馬	"	都植	裕	H1	
	顧	問	岩藤	"	鈴木	忠	43	
"	"	高木	支副	久保	次	37		
支副	長長	湯浅	支副	松野	郎	39		
理	"	原田	"	下野	治	22		
"	"	岩切	"	村	隆	40		
"	"	江藤	"	中	強	41		
"	"	黒木	"	外園	博	55		
"	"	田石	"	宮原	明	36		
"	"	山下	"	富永	人	37		
"	"	宮武	"	松野	男	38		
"	"	有馬	"	串問	二	41		
"	"	鶴田	"	吉井	章	41		
会監	計査	西本	"	塚本	治	52		
理事	局長	岩熊	"	小柳	二	H2		
務	"	菅本	"	米倉	之	H9		
局	"	和寛	"		誠			

## 支部だより

### 東京支部だより



支部長  
清水 満  
(55年卒)

今年も台風が多く発生し、台風14号では宮崎で1300mmの雨量を記録するなど九州を始め多くの地区に被害をもたらしました。TVのニュースで大淀川の水位が危険水位を越えている様子が写っており、堤防が決壊しないか心配していた次第です。

一方、アメリカでは大型ハリケーン“リタ”“カトリーヌ”により多くの被災者を出し、甚大な被害をもたらしました。ここ数年このような大きな自然災害が頻発しており、改めて地球温暖化、急速な地球環境破壊に対する対策の緊急性を感じております。

一方、経済面では自動車産業、IT関連産業を中心に日本国内の景気を引っ張っており、冬の賞与は“バブル崩壊後最高額”と新聞等で報道されている点は明るいニュースです。

東京化学会では3月26日に総会を開催致しました。志摩先生、今田先生に加えて、現役の木島先生、塩盛先生にも御出席いただくことができました。今年も27名の参加者となりましたが、平成卒の若手会員の参加者が少なく、若手会員の参加をどうやって増やしていくかが東京化学

会の今後の大きな課題といえます。活動報告の質疑応答においては先輩方より活発なご意見を頂くことができ、東京化学会の運営にも新たな取り組みの必要性を感じました。来年の総会では早期に準備を進め、50名以上の参加を目標したいと考えております。

当日は志摩先生、今田先生の近況のご報告、木島先生、塩盛先生には大学の近況、国立大学法人としての大学の変化と取り組みについてのご報告を頂き、参加者全員大変興味深く聞き入っておりました。先生との親睦、会員同士の親睦を深めることが出来、盛会に終わることが出来ました。

6月11日には河野先生の退職記念事業がホテル神田橋にて開催され、東京化学会として記念事業に参加させて頂きました。河野先生の貴重な体験談を交えた記念講演を拝聴し、先生が39年間にわたって多くの学生の指導と優秀な卒業生を多数輩出され、多くの研究成果を挙げられましたことに、河野先生の温厚な人柄と教育・研究に対する強い情熱を感じた次第です。河野先生は今後パソコンや釣り等自然とのふれ合いを趣味としてお過ごしのことと伺っておりますが、先生のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

#### 【お願い】

東京化学会会員の住所変更による転居先不明者が多くなっております。

住所変更された方、転居先不明の方(東京化学会HPに名簿を掲載)につきましては、事務局または [tokyokagakukai@infoseek.jp](mailto:tokyokagakukai@infoseek.jp) 宛連絡をお願い致します。

### 関西支部だより



支部長  
安井 啓 剛  
(37年卒)

暑い夏日がいつまで続くのやらと思っていたら、急に朝夕が冷え込みだしやっとなり秋らしい季節となりました。今年は台風も少なく、良い年になるかと思っていた矢先、台風14号に宮崎地方は甚大な被害を受け、大変な状況となったことを知りました。被災された関係者の皆様には心よりのお見舞いを申し上げます。どうか一刻も早く回復出来ますこと お祈り申し上げます。

さて、その後1年間の支部活動状況について、以下に報告いたします。

#### 1. 幹事会

- (1) 1月18日(日) 12~14時40分 大阪市内。出席者=安井支部長・黒木・小宮副支部長・吉田・津曲・有留・岩佐・芝原理事・都地会計・西監事の10名。議事内容は 昨年開催した総会の反省と今後の活動について。出席者42名で目標の80名には未達であったが、各種イベント、アトラクションで会場

が沸きあがり、楽しい懇親の場になったのは良かったと総括し、今後更に若い会員の出席を増やすためには若い幹事を選出し、若人が参加したくなる企画や会費を安くする検討をすることとした。また総会は2年に1回くらいの開催でよいとの意見多し。

- (2) 3月6日(日) 11~14時 大阪市内。出席者=安井支部長・黒木・小宮副支部長・津曲・有留・岩佐理事・都地会計の7名。

議事内容は 一度宮崎で幹事会を開き、本部役員との交流を図ることと同時に6月宮崎で開かれる河野教授の退職記念行事に参加出席する件を討議。結論は支部活動の一環として実施することにした。ただし支部会員の皆さんへの呼び掛けは、工数負担の大きさと参加希望者数の効果とを考慮の上取止めた。

#### 2. 河野先生退職記念事業への参加出席(6月11日・ホテル神田橋)

出席者は安井・黒木・都地(夫人同伴)・小宮・津曲・岩佐・芝原(夫人同伴)さんの6名。別途、支部会員の大上さん(38年卒)も参加された。

記念事業は 河野先生の最終講義と研究室の思い出に始まり、全員の記念写真撮影、祝賀会の順番で進んだ。参加者は150名を超える大人数で、会場からはみ出る感じの大賑わいであった。

河野先生は奥様同伴で出席され、40年に亘る汗と努力の学生生活のエッセンスを平易に説明されて多くの感動を与えてくれた。その甲斐あつての結果として、阪大の教授を始め、九州各地の大学教授の方々が祝賀会に駆けつけておられた。多数の若い学生や卒業生も参加されている状況を見るにつけ、支部総会で若い卒業生が少なく、また参加率も低いことと比べて、何でだろう？ 支部総会が魅力無いのだろうか？ それとも最近の卒業生は地元しか就職していないのではなかろうか？ との素朴な疑問が湧いてきた。ともあれ参加した幹事は祝賀会後自由行動とし、各自同期生との懇親に楽しいひと時を持ったようだ。記念事業の詳しい報告は、別途あるものと思うので、ここでは割愛する。

## 名古屋支部だより

支部長 清水 一生  
(34年卒)

暑さ寒さも彼岸までとは良く云ったもので、例年にくらべ気温は高めではあるが、9月23日を境にぐっと秋の足音の近づきを感じる様になりました。今年も例年通り、名古屋支部の活動状況と同窓会の両輪のひとつである二八会の実施状況について報告します。

### 1. 名古屋支部の活動について

10月1日、名古屋支部役員会の開催場所として定例化している名古屋鉄道沿線の知立駅前にある、ホテル内のレストランで役員会を開催した。今回の主な議題は時期支部長の選出です。現支部長の任期は約一年半残っていますがが家庭の事情で、神奈川県の平塚市への移転が来年に計画されている為、新支部長選任の役員会が開催された。その結果出席者全員の賛成で昭和43年卒の上田和生さんが新支部長に選任されました。会則に基づき名古屋支部会員各位の賛同を得て12月1日から新支部長のもと名古屋支部の活動がスタートします。その他今回の役員会の約束事項として、1) 支部長の任期は原則2年とし、副支部長が支部長を引きつぐ。これは結果的に先輩から後輩へのバトンタッチになります。2) 社会情勢の変化等により(旧)工業化学科からの後輩の入社が、会員各位の勤務先へほとんどない中、会員の中には来年度からの入社が見込まれているとの情報があり、その人達の賛同が得られれば学部・学科にこだわらず入会していただく、という事が決まりました。未筆になりましたが6年半という長期にわたり、役員の方々ならびに会員各位のご協力により支部長としての役割をはたせた事に心より感謝いたします。尚一部役員の変更もありますが化学会会報をご参照下さい。

### 2. 二八会の活動について

前回の化学会会報で報告した通り、昨年宮崎で28年入学のクラスと30年入学のクラスが合流してクラス会を開催しました。その席でこのふたつのクラスが合併して今後二八会として1年に1回実施することがきまり、次の

### 3. その他

- (1) 監事の西さん(37年卒)が急な話で、故郷の大分に帰る(引き上げる)とのことで、10月中旬 在阪の同期生が送別懇親会を開いた。幹事の後任は任期途中のため、取り合えず、植田(わさだ)さん(37年卒)にお願いし、後日幹事会と総会での承認を受ける。
- (2) 7月初めに懇親ゴルフを開催した。当初3組でのコンペを予定したが、平日であったため、参加者が集まらず、結局1組だけでプレーした。今後はもっと多くの人に参加呼びかけをするつもり。紙面を借りて一言。どなたかゴルフの幹事を積極的に引き受けてくれませんか？ 腕前は二の次で結構です。よろしく。

幹事としてわたしが指名されました。

幹事の独断で今年は秋の奈良・大和路をたずねる事とし、プランを練りあげました。今回のプラン立案に当って、1) 紅葉の名所をたずねる。2) ちょっと変わったことをしてみたい。3) 今迄にたずねてない所へも寄りたい。以上の三点を考慮しながら、奈良当麻の葛木二上神社の宮司：蟹守さん(写真仲間)の協力を得て11月18日～11月20日のプランが出来上がりました。

その概要は次の通りです。

初日11月18日はJR新大阪に集合し、観光バスで当日の宿泊先のホテルへ直行。紅葉の名所談山神宮社(藤原氏と関係の深い)を一望出来るホテルに宿泊し、懇親会を開催します。11月19日の主な観光先は、薬師寺の壁画の特別展とJR奈良駅近くの古い日本の町並の残る奈良町の散策です。最終日11月20日のメインイベントは由緒ある石上神宮で宮司さんから神事に関するお話を聞くことです。全行程を前述の観光バスを利用してJR奈良駅での解散を予定しています。

参加人数は18人を予定。二八会の母体の二つのクラス以外に31、32、36年のクラスからの参加もあります。

幸いにも今年は2人の新メンバーの参加がありました。その中の1名は化学会事務局の宮武さんの情報によるものであり、参加には結び付きませんでした。後輩の近況を知ることが出来ました。ご協力ありがとうございました。支部だよりの原稿への関係で実施計画の報告となりま



## 支部だより

した。実施中に起きるエピソード等が書けないのは残念です。長年に渡る二八会に関する投稿を許して下さい



### 福岡支部だより

支部長

宮原 陸人  
(36年卒)

地球温暖化の要因増加に拍車がかかり始めたことを知らしめるように、今年の夏は、異常な暑さが続き、昼間の屋外に数十分居るだけで汗が吹き出し、冷房の部屋に逃げ込む毎日でした。また海水温上昇に伴う超大型の台風が発生して、福岡県にとっては最悪のコースに進み大きな被害が心配されましたが、九州に上陸した途端に勢力が急に弱まり、昨年と比べると今年は大助かりでした。

ところで、当福岡支部は、平成13年に総会を開催して丁度4年経過した今年は数回に渡り打ち合わせを行い、10月1日(土)に総会を開くことにしました。当日は、秋分の日が過ぎたにもかかわらず真夏日の様な暑さの中、天神平和楼での17時開催に21名の方が参集されました。参加者の内訳は、宮大から塩盛助教授と宮崎本部から清山常任理事のお二人に来賓として参加して頂き、当支部の参加者は19名でした。また、年代別の参加者は、昭和30年から50年代16名が大部分を占め、平成年代の人は、3名で若年の方々の参加が少なくなっており、この現象は他支部でも同様の傾向ではないかと存じますが、今後とも若い新進気鋭の方々の参加を如何にして多くするかが

化学会事務局と目を通して下さった会員各位に感謝しつつ筆を置きます。

課題ではないかと思いますが、平成16年卒の方が1名参加されたことが一つの光明かと存じます。また、女性の方が2名参加され、聞くところによれば近年は女性の入学者が増加しているとのことで、頼もしいかぎりです。

さて、当支部の総会の状況は、部屋中の壁には宮崎県の観光PR写真を張りめぐらすのが恒例となっておりますが、特に今回は、塩盛助教授に宮大工学部及び物質環境化学科の現況説明をして頂いた後、特別に、その道のエキスパートの方に話をさせて頂こうということで、西部ガス(株)元重役、現西部ガスエンジニアリング(株)の有田社長に、日本の都市ガスに関する講演をして頂いた他、宮崎大学の校歌を有志一同で歌って頂き、また、各テーブルでは諸々の談話が弾み、有意義な総会を無事終了することができました。今総会開催に御協力頂いた方々にお礼申し上げますとともに、今後は、外園支部長に託することになっておりますのでお知らせいたします。



### 宮崎支部だより

支部長

湯浅 直克  
(43年卒)

世界各地で、地震、台風等の大きな自然災害が、発生しています。

国内でも昨年から強い台風や、福岡、西部沖他各地で地震が発生しています。

さて、ここ宮崎においても例にもれず、今年には宮崎県内に、大きな被害をもたらした台風14号が、各地に大きなダメージを残して過ぎていきました。

被災された方々は、ご苦労されていることと思います。お見舞い申し上げます。

宮崎においては、悪いことばかり続いている訳ではなく、市内の町並が整備され、昔なじみの西橋通り、中央通りが店主の世代交替も手伝って、昔あった店が、建替り、

歩く人もそれぞれ変わり、総じて今の宮崎が出来ていると思われま

す。宮崎大学も創立60周年を迎え、本年4月22日に記念行事が行なわれ、この間多くの卒業生を輩出し、色々な所で活躍されていることは、言うまでもありません。

さて宮崎支部の行事として、年1回の支部総会を行なっていますが、今年は、河野先生の定年退職記念講演や、引続き6月11日に行なわれた記念行事等が、重なり、予定では、早く支部総会を行なう計画でしたが、行事が続いたこともあり遅くなり、10月29日に計画致しました。

なお支部総会には、若い方が増えていますが、諸先輩方のご出席もお願い致します。

ところで、宮崎大学でも博士課程が出来て、博士になれる方も少しずつ出て来ている様ですが、今年、女性の博士が誕生したとのことで、大変うれしいニュースであります。

そんな宮崎も、善いことも、悪い点も、少しずつ変わっていています。各支部の皆様には、節目の機会を見て変わった宮崎を見に帰って来て下さい。



## 懐古!! 『学生時代』

常任理事

小林 吾一

(平成5年卒)

今や世は空前の焼酎ブーム!? つい最近、出張先で赤提灯に寄ってみた。カウンターには、どう見ても店の雰囲気には似合わない綺麗なOLさん達が数名居り、その傍らには芋焼酎の一升瓶と氷。あたかもBarでカクテルでも飲んでいるかのように、芋焼酎のロックの杯を傾けていた。それはおじさん族の定番のはず!! 飲兵衛達の憩い・社交の場も代わりつつあるのかと、その不思議な光景を眺めながら、私も店の親父に「霧島! お湯割で」と注文した。すると、その内の一人のOLさんが『焼酎って、おいしいですよ!』と声をかけてきてくれた。『うまいよね!!』とだけ答えておいた。

私は平成5年に工業化学科を卒業し、現在は大分県立中津工業高校に勤務しています。大学時代は勤勉で、今もその時代に培った化学と夢を子供たちに語り続けます…とでも書きたいところですが、さすがにウソはかけません。教員採用試験に合格して今田先生に報告したとき『君が高校の先生ですかねー』『はあー』とため息をつかれたほどですから…! しかし、それも当然です。学生時代の私(達)は…。

大学1年次: 新入生歓迎コンパ。右腕にマジックペンで住所と名前をかかれた私たち1年生は、2年生に連れられて市内の中華料理店にいった。3年生から修士まで勢ぞろいの先輩たちに圧倒されたのは束の間、料理は食べぬままに焼酎を飲まされた。気が付いたら翌日になっていた。頭痛が酷い。起きた場所はなぜだろう、猪股先輩宅! 焼酎を浴びていた、くさかった。2度と飲むのか!!

大学2年次: 5月の学際では連日、大はしゃぎ。毎日、打ち上げ会のような生活をしているくせに、最終日には工業化学科打ち上げ会と銘打って、なけなしの銭を持ち桶通りに繰り出した。皆、焼酎を浴びていた! 芋の臭いにも慣れてきた!

大学3年次: 応援団長を仰せつかり、工学部体育祭で優勝した感動は昨日のこのように思い出す。太鼓の池辺、講義はサボっても練習だけはサボらなかつた宮本の涙は忘れられない。後夜祭はうれしさのあまり、優勝カップで焼酎のイッキ飲み。これぞ団長冥利につきる。焼酎のうまかったこと、しかしその後、祝い酒(焼酎)だと、滝本、船津、日溪先輩などに次々に飲まされて、気が付けば翌日。どうやってアパートまで帰ったのだろう? 又も、焼酎を浴びていた! しかも、一升瓶を抱えて寝ていた。

大学4年次: 研究室で徹夜実験とは格好ばかりで、よく鍋を囲んだ。試薬瓶のように違和感なく並んでいた一升瓶は私達の研究室だけだったのかな? 宮武『覚えてる!』。今では有り得ない事だな、宮武助手…! 後輩たちの手前、浴びるほど飲むことがなくなったのに、一人で飲みすぎて、入院したサ○オ君は伝説である!

懐古!! 『私の学生時代』。教え子には知られたいくない過去!? 化学会の先輩方からは叱咤され、後輩たちからは軽蔑されそうな学生生活。…しかし、冒頭の女性の間に『うまいね!』と、焼酎の『うまさ』を語るだけの学生生活を送った者も、そう多くはないでしょう。学生生活を美化するつもりはありませんが、本当に有意義なときでした。そのような破天荒な私でさえ温かく、仲間としてくれる化学会で、先輩諸氏または後輩たちと酌み交わす

焼酎の『うまい』こと! これぞ宮大! これぞ化学会!

最後になりますが、この化学会は先輩諸氏のご苦労と愛する気持ちから発足され、現在も各部会、会報の発行など様々な活動が行われています。今後も卒業生の親睦の拠点となり発展し続けるよう皆様のご協力をお願いいたします。化学会の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



## 大学と資格

常任理事

菅本 和寛

(平成3年卒)

最近景気は良くなってきたと言われてはいますが、大学の就職状況はいまだ厳しいのが現状です。そのためか、就職時に有利になるかもしれないということで資格に興味を持っている学生が増えてきています。10月2日の水質関係第一種公害防止管理者の試験も物質環境化学科だけで約40名が受験しました。試験は福岡であったにも関わらず、これだけ受験者が多かったのは、「環境化学技術者育成教育プログラムの構築」という教育プロジェクトの一環で松下先生が公害防止管理者受験準備講座を開講されたためと考えられます。この講座は土曜など課外に実施されたのですが非常に多くの学生が受講しており、資格に対する学生の熱意を実感しました。私も最近資格に興味を持っていたのでこの講義を受講させて頂き、資格試験を受験しました。仕事と試験勉強の両立はなかなか難しくかったのですが自己採点結果では合格しており、ほっとしています。

私が資格に興味を持ち出すきっかけとなったのは、国立大学が法人化したため、大学も労働安全衛生法が適用されるようになり研究室でも作業環境測定が義務づけられるようになったためです。特に化学系は対象となる部屋が多いため、外部に依頼した場合の多額の費用負担が問題になってきました。それならば、化学分析をしている教員もいるので自前で測定すれば費用負担が軽減できるということになり、有機合成を専門としている私は作業環境測定士の資格を取らないといけなくなりました。工学部からテキスト代、講習代、受験料、受験時宿泊代など資格取得にかかる全ての費用を出して頂いたのですが、これがかんりのプレッシャーとなり夏休みなどは毎日図書館に行き勉強しました。こんなに必死に勉強したのは大学院受験勉強以来だと思います。そのお陰でなんとか一発で第一種作業環境測定士(特定化学物質関係、有機溶剤関係)になることができました。法人化し、大学もかなり変わってきており、その他に衛生管理者など様々な資格が必要になってきました。今回受験した公害防止管理者などは仕事と直接関係はありません。しかし、このような資格の勉強をするのは今後の教育研究にきつと役に立つと考えています。

宮崎大学工学部化学会 副会長

**佐藤 松 男** (昭和41年卒)

河野恵宣先生には平成17年3月末日をもって宮崎大学を定年退職されました。

先生は昭和38年3月宮崎大学工学部工業化学科卒業、株式会社藤永田造船所エンジニアリング部就職、昭和40年6月宮崎大学工学部技官任官、昭和42年6月助手、昭和59年1月工学博士（九州大学）取得、昭和59年4月助教授、平成3年6月教授に昇任されました。この間、40年にわたって教育研究に携わり、数多くの学部生、修士学生を育て、その中から3名の工学博士も育てておられます。

研究では、酸類の溶媒抽出における反応速度を、二層流接触型抽出装置を用いて測定して界面反応機構を解明するという独創的な研究をされ、金属類の溶媒抽出、高効率抽出装置の開発、さらには、廃液からの有価物回収プロセスの実用化へと研究を進展させました。また、マイクロカプセルの調製と機能化についての先駆的な研究と共に、油脂の酸化と酸化防止に関する速度論的研究、焼酎の蒸留技術および蒸留廃液の処理技術に関する研究など化学平衡と反応速度に基礎をおいて応用技術へ展開する幅広い研究をされました。

学内では、工学部長期計画委員会委員長、宮崎大学評議員、宮崎大学安全対策委員会委員長などの要職で工学部および宮崎大学の発展に尽くされました。

学外では、化学工学会評議員、南九州化学工学懇話会会長、宮崎県環境審議会会長等の要職を歴任されました。また化学の啓蒙と化学関連教員の交流と連携を目的とした宮崎県理科・化学教育懇談会の設立にご尽力され、平成13・14年度には会長を務めるなど宮崎県の化学教育の充実に貢献されました。

さらに、工業化学科から続く卒業生の唯一の同窓会である宮崎大学工学部化学会を長年にわたり理事長として中心となって支えられ、現在の活気ある同窓会に発展させられました。

先生のご退職にあたり、永年のご功績を讃え、感謝の意を表すとともに、今後のご活躍とご健勝を祈念して、退職記念事業が開催されました。

平成17年6月11日(土)(於)ホテル神田橋

16:00～ 河野恵宣先生退職記念講演

18:00～ 祝賀会

司会/佐藤松男(昭和41年卒)

世話人代表挨拶/原田繁利(昭和38年卒)

花束贈呈/佐藤亜希・原田裕子(平成17年卒)

【河野先生ご挨拶】

記念品贈呈・紹介/清山史朗(平成4年卒)

祝辞/中塩 文行 九州大学名誉教授

船木 哲 先生(昭和24年卒)

木島 剛 物質環境化学科教授

塩盛弘一郎 物質環境化学科助教授(昭和63年卒)

【祝宴】

乾杯/村上 悟 宮崎大学工学部化学会会長(昭和30年卒)

【スピーチ・アトラクション(多数)】

万歳三唱/幡手泰雄 鹿児島大学工学部教授



当日は全国各地から137名の出席者と、48名の賛同者がありました。祝賀会では、全国から参集された河野先生の研究仲間の諸先生方のスピーチ、共同研究企業の「祝いと太鼓」、卒業生のエールや出し物などで大変な盛り上がりでした。河野先生のご退職を盛大にお祝いするとともに、お互いの親睦を深めることもできたようでした。

先生は、私ども同窓会化学会卒業生として、同学部教授に最初になられ方です。先生のすばらしい業績には驚きましたし、また先生の周りには人がよく集まるのにも驚きました。これはやはり先生の努力と人徳がなせる技でしょう。

先生のますますのご活躍とご健康とご多幸をご祈念申し上げますとともに、後輩諸君が先生の後に続いていくことを期待してやまない次第であります。



退職記念祝賀会



## [宮崎大学の近況]

# 学部教育のJABEE認定と大学院改組

学科長 横井 春比古  
(生物物質化学講座)

国立大学法人宮崎大学がスタートして2年目となりますが、大学・学部・学科の中期目標中期計画を達成するために学科教職員は多忙の毎日です。法人化後、国からの運営交付金が年々削減されて研究室に配分される教育研究費は激減しており、今後は教職員数の削減も予想されます。少子化による大学受験者数減も深刻な問題であり、地方の大学はますます運営が厳しい時代となっています。

このような状況にあって、物質環境化学科(物質工学科応用化学コースを含む)では、平成17年3月に62名の学士および28名の修士が巣立ちました。学部卒業生の内30名が企業等に就職し、27名が大学院へ進学、5名が専門学校への進学者・自営業・未決定者でした。大学院修了生では、24名が企業等に就職し、2名が博士後期課程への進学、2名が未定でした。

教職員の動向としては、本年3月に河野恵宣教授(機能物質化学講座)が定年でご退職になられました。退職記念講演会と記念祝賀会には、多数の卒業生・在校生・化学会関係者にご出席いただきました。永年にわたり本学科での教育研究にご活躍になられ、さらに化学会の発展に大変ご尽力いただきましたことにあらためて感謝を申し上げます。

学科の主だった動きとしては、本年6月に学科教育プログラムが日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を得ました。当学科の教育内容とシステムが世界水準の技術者養成の基準を満たしていることが認証されたわけですが、今後はPDCAのループによる継続的

な点検評価を行ってさらなる改善に努めなければなりません。JABEE教育プログラムの維持には実のところ多大の時間と労力が必要ですが、教育の質を対外的に保証するためにも学科一丸となって取り組んで参ります。また、大学院博士前期課程(修士)においては、本年4月に物質工学専攻(応用化学コース)を改組して、物質環境化学科の上に積み上げる形で物質環境化学専攻(定員21名)を新設しました。新専攻では、自専攻の科目以外に工学研究科他専攻の科目を履修する融合型カリキュラムの提供や、農学研究科応用生物科学専攻との生物工学関連のカリキュラム上の連携等、特色ある大学院教育を行っています。さらに、昨年11月には大学及び企業等の有識者による外部評価を受けました。学科の組織運営、教育・研究・社会活動に対して貴重な意見をいただきましたが、学科の改革と改善に向けて有効に活用したいと思います。なお、本年4月には工学部の創立60周年の記念行事が盛大に開催され、化学会の同窓生も多数出席いただき、在校生及び教職員との交流を深めることができました。

大学は、社会のニーズにあった教育の実践、社会に役立つ研究の実施、研究成果の公開と技術移転、産官学連携と地域貢献等を通じて、その存在意義を広く社会に認めてもらわなければこれからの淘汰の時代を生き残ってはいけません。今後とも同窓生の皆様のご期待に応えられるように教職員全員で学科の改革に努めてまいりますので、ご教示並びにご支援を宜しく申し上げます。

## 物質環境化学科職員 (平成17年11月現在)

	講 座	教 授	助 教 授	助 手	技官・事務職員
物質環境化学科	機能物質化学	木島 剛 保田 昌秀	酒井 剛 白上 努 塩盛 弘一郎	松本 仁	齋藤 泰男 藤掛 喜代美 齋貝 佃
	資源環境化学	松井 隆尚 馬場 由成 田畑 研二	松下 洋一 大島 達也	菅本 和寛 大栄 薫	
	生物物質化学	林 幸男 横井 春比古	湯井 敏文 廣 瀬 遵	宮武 宗利	

## 機能物質化学講座

(旧有機化学第一研究室)

教授	保田	昌秀
助教授	白上	努仁
助手	松本	仁

当研究室は平成11年4月に物質環境化学科に改組されてからは機能物質化学講座に名称が変更されました。平成12年3月に先代の志摩健介名誉教授が定年退官され、その後、当時本学の地域共同研究センターの専任教官であった保田が物質環境化学科へ転任し、平成12年11月に助教授から教授に昇任しました。平成15年1月に北海道大学から松本が助手として赴任し、平成7年6月に東京都立大学（現首都大学東京）から助教授として既に赴任している白上と合わせて、現在3名のスタッフで研究室の運営にあっています。学生は、博士後期課程(博士)1名、博士前期課程(修士)10名、学部4年生8名が在籍しています。



今年度、物質環境化学科では念願のJABEE（日本技術者教育認定機構）教育プログラムが認定され、なお一層の学部教育の充実化が図られています。また大学院博士前期課程では物質環境化学専攻が新設され、新たなカリキュラムでの大学院教育がスタートしました。その折り、文部科学省へ申請していた「特色ある大学院教育GP（GPとはGood Practiceの意）」が難関を突破して見事採択されました。この計画は本専攻が中心となる教育プログラムであり、大学院教育においても一層の充実化が図られようとしています。このように、めまぐるしく進む大学改革の中、当研究室のスタッフも重要な管理運営業務に関わる機会が増えています。保田は学科内のJABEE推進委員長並びに学科長を経て、平成17年10月より、副学部長（研究担当）に就任し、工学部のみならず全学の管理運営に携わっています。白上は過去5年間に2度の教務委員を経験し、現在工学部FD委員長として、松本は体験入学に関する委員並びに作業環境測定士の資格を取得し学科内の安全管理委員としてそれぞれ貢献しています。

当研究室では「光化学と環境」をテーマとした研究に取り組んでいます。平成15年に研究室内に設置された「共焦点レーザー顕微鏡」により、界面を利用した

光化学に関する実験が可能になったことをきっかけに、研究内容が従来の溶液中の光化学から大きく変化しました。現在の主な研究テーマは「マイクロチャンネル反応器を用いた光反応系の開発」、「無機・有機高分子担体へ固定化した金属ポルフィリン錯体の光触媒作用」、および「ポルフィリン・層状粘土化合物複合体の光機能に関する研究」等が挙げられます。特に、光触媒に関する研究では、「生活環境場でのレジオネラ属菌の可視光殺菌技術」の開発に成功しています。この研究は文科省科研費「特定領域研究（光機能界面の学理と技術）」（平成13年度～18年度）並びに経済産業省「地域新生コンソーシアム研究開発事業」（平成16年度～17年度）にそれぞれ採択され、新聞・テレビ等のマスコミにも大きく取り上げられました。またポルフィリン・粘土複合体に関する研究では、文科省科研費「基盤研究(C)」(平成16年度～17年度)に採択され、さらに科学技術振興機構のSORST(平成17年度～)に採択された研究プロジェクトの一部を分担しています。マイクロチャンネル反応系に研究においても、今年度科学技術振興機構から支援されています。

我々研究スタッフは、光が関与する環境分野において地域の企業並びに産業界に少しでも貢献できればと考えておりますので、何かお役に立てることがありましたらお気軽にご相談頂ければと思います。最後に、宮崎大学工学部化学会会員の皆様方に対し、益々のご活躍とご発展を心よりお祈り致します。

## 『繋がり』

博士前期課程2年 若松勝男

宮崎大学に入学してから6年が過ぎようとしています。まもなく大学院を修了し、平成18年の4月からは社会人として新たなスタートが始まります。工学部化学会会報の執筆を機に、人生の節目としてこれまでの大学生活を振り返ることにしました。

私は平成12年の春に宮崎大学工学部物質環境化学科に入学しました。入学当初は、大学生活に対する期待と不安が胸がいっぱいでした。正直、「友達ができるのだろうか?」とか「単位は無事に取れるのだろうか?」とか、期待よりも不安の方が大きかったような気がします。そんな不安は、友達ができると同時に和らぎました。一人暮らしで始まった大学生活からすると、仲間の存在は自分自身にとって大切なものだと痛感しました。仲間の絆をより深めたものはサークル活動でした。サークルは関心や趣味を同じとする人が集まる場なので、価値観を共有し、さらに深めることができると思います。私が所属していた音楽サークルでは、バンドを結成し、メンバー全員で立てた目標を達成することで、仲間との信頼を深めることができました。

研究室に配属され、ますます人と人の繋がりは大切なものだと思うようになりました。4年生になり研究室に配属されると、学会や他大学との交流会に参加する機会が増え、多くの学生や先生方との意見の交換が増えました。これにより繋がりが生まれ、研究が進展したり、新しい研究がスタートしたりすることもありました。同じ化学を専門とする人の繋がりができたおかげで、私は様々なアドバイスを受けることができました。

大学生活を振り返ってみて、私の大学生活は人と人の繋がりの上に成り立っているものだと強く感じました。社会に出ると一人で働くことはまずないと思います。先輩方、同期、もしくは他社の方かもしれません。私は社会に出るにあたり、人と人の繋がりを大切にしていきたいと考えています。

最後に、これまで私を支えてくれた家族、友達、先生方に感謝します。



## 大学生活とこれから

物質環境化学科4年 石川幸世

学会会報の原稿依頼の大役を預かり少し戸惑っておりますが、

私自身の話をさせていただきますと、来春卒業を迎え、社会人の仲間入りをします。社会に出るにあたり、拙い文章ですが現時点での私の思いを書かせて頂きたいと思います。

### 大学生活で学んだこと

勉強や化学の知識はもちろんですが、それと同時に実験のノウハウや取り組む姿勢に関しても教えて頂きました。研究室に配属された直後は何をしても良いのかもわからず手探り状態の私でしたが、先輩方の熱心な御指導と先生方の御助言と御協力のおかげで実験を進める事が出来るようになりました。もちろん、実験以外においても全てがうまくいくわけでも無く大きな壁に当たる事もありました。投げ出したりしたくなる時でも何度となくありましたが、その度に「まだ100%全力を出していない、まだやれる!!!」と自分に言いかけました。そう考えると不思議と気持ちに余裕ができるような気がしました。また、趣味やアルバイトをすることによって気が紛れますし、ストレスを発散させられるようになりました。それにより時間の使い方も上手くなったと思います。

### これから...

正直なことをいいますと、将来に対しては不安のほうが多く、現在の社会の状態をとっても厳しく感じます。『学生生活は社会にでるまでの猶予期間』だと聞いたことがありますが、まさにその通りだと思います。22年間親の庇護の下、様々な経験を通して社会勉強をしてきた訳ですが、まだまだ勉強不足だと強く感じます。卒業までにしておきたい事は、ビジネスマナー、英語、中国語を身につけておきたいと考えています。国内の企業が海外に進出する中で、英語はもちろんのこと、これからは中国語も必要になってくると思います。現在の世界情勢を考えると日本国内だけではなく国外にも目を向けることは必須だと思います。

社会に出てすぐは仕事を覚えることで必死だと思いますが、その中で時間を見つけて資格を取るための勉強をし、趣味にも積極的にいそぎたいと思っています。自分の意見を通すことが難しい中で、いかに臨機応変に対応し、その時々において自分自身でより正解に近い判断が瞬時に出来るようになりたいと考えています。

社会に出れば、日常が勉強の場だと思います。例えば自分が失敗、無駄だと感じたりすることも後々教訓になったりします。これから先、遠回りしたり、悩み、立ち止まったりすることも多々出てくると思います。そのことが自分の望んでいない結果に終わったとしても、人生の最終結果ではなく、途中経過であり、通過点であると考え、その一つ一つに後悔のない答えを出していきたいと思っています。

まだまだ厳しい時期が続きますが、これからの宮崎大学工学部化学会と同窓生諸兄の御発展をお祈りしています。



# 平成17年3月卒業生就職先および卒論題目

氏名	就職・進学先	論文題目	研究室
安藤 克敏(修士)	日本磁気選鉱㈱	硫黄原子が軸配位したアンチモンポルフィリン錯体の合成と性質	機能3
磯畑 周作(修士)	㈱ファーストリテイリング	複合鋳型法によるナノ白金担持カーボンの作製と電気化学特性評価	機能2
岩切 良久(修士)	旭化成ファインケム㈱	デヒドロアビエチン酸から天然アビエタンジテルペンキンの合成	資源1
江藤 寿哲(修士)	旭化成マイクロシステム㈱	アンチモンポルフィリン/SiO <sub>2</sub> 光触媒作用に対する触媒表面改質の効果	機能3
大山 広晃(修士)	平井精密工業㈱	多孔性固体内包マイクロカプセルの調製とその機能性付与に関する研究	機能1
小川 託(修士)	ソニーセミコンダクタ九州㈱	複合界面活性剤液晶を還元場とする白金の電解析出	機能2
甲斐 慎二(修士)	宮崎大学工学部材料工学科	SPG膜を利用したナノスケール界面の創製と貴金属イオン回収技術への応用	資源2
亀田 雄平(修士)	㈱エービーシー・ホールディング	シリカゲル固定化N-ヒドロキシフルアリミドを触媒とするアリールアルカン類の酸化	資源1
川添 貴文(修士)	中野製菓㈱	液中乾燥法による除草剤内包マイクロカプセルの調製と内包特性	機能1
河野 秀典(修士)	㈱ハイテック	枯草菌が産生する胞子結合型ラッカーゼの熱による賦活化に関する研究	生物2
窪田 弓彦(修士)	㈱電産社	Bacillus cereus var. mycoides 由来β-アミラーゼの基質認識機構に関する分子シミュレーション研究	生物1
坂本 大地(修士)	㈱エイム	マイクロチャンネル反応装置を使ったレドックス光増感アミノ化反応	機能3
真廣 実里(修士)	㈱ニトリ	液中乾燥法による抗菌剤内包マイクロカプセル調製と機能性付与に関する研究	機能1
佐藤 輝宗(修士)		複合鋳型法によるナノ白金担持触媒の作製と特性評価	機能2
佐藤 輝宗(修士)		紫外線照射下における脂質酸化反応挙動に関する速度論的検討	機能1
椎葉 慎介(修士)	三島光産㈱	水溶性アミンによる逆ミセルの特性制御とそのタンパク質抽出への応用	機能1
清水 正雄(修士)	双信電機㈱	白金担持メソポーラスカーボン/ナフィオンコンポジットの合成	機能2
岡屋 進三(修士)	理研計器㈱	複合鋳型/光還元法による白金ナノ構造体の合成	機能2
高橋 篤史(修士)	栗田エンジニアリング㈱	半連続型微粒子調製装置の開発と操作特性に関する研究	機能1
田飯 淳(修士)	四国化成工業㈱	ジアセチレン基を有する光重合性ベシクルの作製と両親媒性化合物との相溶性に関する研究	機能3
那須 雅子(修士)	財団法人文化振興協会	枯草菌が産生する胞子結合型ラッカーゼの酵素化学的諸性質に関する研究	生物2
波佐間崇朗(修士)	熊本県警察	分子インプリントキトサン微粒子の合成と希薄溶液からの貴金属イオンの選択的回収技術の開発	資源2
百武 幸司(修士)		鋳型法によるグルコース系ナノ高分子の合成	機能2
藤野 貴政(修士)	雲海酒造㈱	雑草付着性の水素発酵菌を利用する水素生産	生物2
宮窪 建児(修士)	中国塗料㈱	スギ材の水蒸気処理により変化した成分および溶離した成分の分離分析	資源1
吉野 文章(修士)	富士立方マテリアル㈱	Clostridium属菌による澱粉粕及び砂糖蜜からの水素生産	生物2
脇山 元気(修士)	宮崎大学工学部材料工学科	微生物の生産する多糖の化学構造解析	生物1
顧 潔(修士)	㈱カナボウ化粧品	植物性ポリフェノールの脂質抗酸化機構	機能1
江 馬 智	宮崎大学大学院	レジオネラ属菌に対するリンポルフィリン触媒の生活環境場における可視光殺菌実証実験	機能3
徳 弘 哲 郎	㈱アール・インターナショナル	Aspergillus属菌由来β-キシロシダーゼの生産に関する研究	生物1
浦 崎 宏 美		光化学の基礎原理の学習とレドックス光増感アミノ化反応への適用	機能3
岸 下 哲 平	日本アイティディー㈱	複合界面活性剤液晶を鋳型とする金ナノロッドの合成	機能2
柴 田 恭 輔	専門学校	酸化スズ系触媒(Sn1-xMnxO2)を用いたメタン低温酸化の研究	資源3
谷 頭 宏 美		スギ材・ペイマツ材成分および合成アビエタンジテルペンの抗菌試験	資源1
秋 葉 慎 吾	㈱アステム	セルロースβ型結晶マイクロフィブリルモデルの膨潤シミュレーション	生物1
朝 倉 有 香	旭化成アミダス㈱	シリカゲル担持リンポルフィリン光触媒の調製と安定性の評価	機能3
東 桃 子	㈱再春館製菓所	スギ材抽出物-スギ材木酢液混合物およびスギ材抽出物-スギ材木タール混合物からなる製剤の調製	資源1
飯 干 玄	㈱コスモス食品	Dibenzo-p-dioxin及びdibenzofuran質化菌のスクリーニング	生物2
伊 藤 亨 祐	宮崎大学大学院	メタン発酵消化液からの肥料成分の吸着分離に関する基礎的研究	機能1
上 原 康 晴		逆ミセルを反応場としたポリビニルアルコール微粒子の調製	機能1
宇 留 嶋 茜	藤沢薬品工業㈱	菌体を用いた金属吸着に関する研究	生物1
緒 方 慎 也	(有)イーデン	紫外光照射下による酸化スズ系触媒表面への活性酸素種生成の研究	資源3
鬼 村 拓 也	宮崎大学大学院	複素環を有する陰イオン交換樹脂の合成と硝酸性窒素の選択的除去	資源2
金 井 祐 基	宮崎大学大学院	アルキル尿素の合成と貴金属イオンの選択的抽出平衡	資源2
椛 大 輔	大牟田信用金庫	逆ミセル法による白金および白金-イリジウム合金微粒子担持カーボンの調製と電気化学特性	機能2
上 田 泰 斗	宮崎大学大学院	複合界面活性剤鋳型法によるスポンジ状白金ナノシートの生成反応に関する研究	機能2
亀 刺 諲 太	ソニーセミコンダクタ九州㈱	アビエター-8,11,13-トリエン誘導体の酸化反応を利用した天然ジテルペンの合成	資源1
川 畑 貴 子	日本浄水管理㈱	バイオマス廃棄物を利用した有害金属および有機金属の回収	資源2
木 村 慶 介	神戸大学大学院	枯草菌由来の胞子結合型ラッカーゼのカテコールに対する作用	生物2
久 家 彩	宮崎大学大学院	SPG膜を利用した精油成分封入キトサンマイクロカプセルの調製とその応用	資源2
久木原 淳一	宮崎大学大学院	ナノサイズ制御された反応場を有する酸化スズ系触媒(Sn1-xGe <sub>x</sub> O <sub>2</sub> )を用いたメタンの選択的酸化反応の研究	資源3
釘 本 貴 宣	宮崎大学大学院	新規糖質生産菌のスクリーニング	生物1
小 園 里 紗	和光純薬工業㈱	Ge-Sn複合酸化物の構造と表面組成の研究	資源3
小 玉 亜 季	宮崎大学大学院	キチン質を原料とした薬品賦活法による高比表面積活性炭の調製と環境汚染物質回収への応用	資源2
小 玉 和 宏	宮崎大学大学院	ロイレアレン関連化合物の合成	資源1
斎 藤 真 理 子	ヤマエ久野㈱	ペイマツ材とスギ材の溶媒抽出・分画および成分の分析	資源1
佐 藤 亜 希	西日本環境技研㈱	スクアレンの酸化速度におよぼす植物性抗酸化剤の影響	機能1
新 堀 知 弘	宮崎大学大学院	SDSナノ複合体の焼成によるEu <sup>3+</sup> -β-酸化イットリウム錯体の合成と発光特性	機能2
鈴 木 秀 茂	宮崎大学大学院	リンポルフィリン/シリカゲル光触媒の殺菌作用	生物2
瀬 戸 口 一 馬	霧島酒造㈱	水素発酵菌Clostridium butyricumによる生ゴミからの水素生産における最適培養条件の検討	生物2
平 佳 二 郎	宮崎大学大学院	糸状菌由来多糖の化学構造解析	生物1
高 橋 尚 希	宮崎大学大学院	茶葉、スギ葉の炭化反応及び炭化生成物の分析	資源1
寺 尾 史	宮崎大学大学院	ペイマツ材水蒸気乾燥凝縮液成分の分離・分析	資源1
東 郷 剛 士	日之出水道機器㈱	フェニルホウ酸基を含むポリ-N-イソプロピルアクリルアミドの熱応答性におよぼす糖の影響	機能1
富 山 明 香	㈱化学及血清療法研究所	共有結合型メキシコ軸配位アンチモンポルフィリン触媒の合成	機能3
直 野 留 美	宮崎大学大学院	耐熱性β-グルコシダーゼを用いるβ-ガラクトシル反応を利用したβ-ガラクトリビドの合成	資源1
中 崎 秀 太	宮崎大学大学院	自然界からの藻類のスクリーニング	生物2
山 中 智 広	宮崎大学大学院	Bacillus subtilis barburg 168由来のラッカーゼ特性	生物2
長 田 裕 仁	宮崎大学大学院	ナノ制御されたペロブスカイト型複合酸化物(LaFe <sub>1-y</sub> CoyO <sub>3</sub> )を用いた可視光応答型光触媒の研究	資源3

氏名	就職・進学先	論文題目	研究室
鍋倉 さやか	第一糖業(株)	フラクトオリゴ糖を用いたエマルションに関する研究	生物1
西本 直子	宮崎大学	通性嫌気性菌Enterobacter aerogenes HO-39によるグリセリンからの水素生産	生物2
原田 裕子	(株)フランク	逆ミセルを用いたタンパク質の正逆連続抽出	機能1
福田 修平	南日本酪農協同(株)	イオン性置換基を持つN-ヒドロキシフルイミド誘導体の合成とそれを触媒とするアリアルルカン類の酸素酸化	資源1
部坂 大輔	(株)サタケ	ミセル溶液内でのキノメチド中間体の発生を利用した[4+2]シクロ付加反応	機能3
前田 丈太	TJMグループ	高マンノースN型糖たんぱく質糖鎖の安定配座サンプリング	生物1
眞崎 貴則	九州大学大学院	部分置換型真球状酸化スズマイクロ粒子の合成と半導体ガスセンサへの応用	機能2
松崎 美幸	(株)吉川システック	微生物由来βアミラーゼ-マルトース複合体の分子動力学計算	生物1
松本 朋子	宮崎大学大学院	マイクロチャンネル反応器を用いた金属ポルフィリン固定化シリカゲルビーズの微小領域光反応	機能3
松山 晋一	専門学校	単式および多段蒸留装置による焼酎の蒸留挙動	機能1
村岡 勝	宮崎大学大学院	微生物由来βアミラーゼ-マルトペンタオース複合体の分子動力学計算	生物1
村上 博規	宮崎大学大学院	複合界面活性剤を鋳型とするシート状白金ナノ構造体の合成	機能2
榎木 尚美	鹿児島県酪農協同組合	ピリジニウムカチオンを軸配位に持つアンチモンポルフィリン・粘土複合体の構造解析	機能3
森 佑太	宮崎大学大学院	粘土層上に吸着したアンチモンポルフィリン/有機色素間の光誘起電子移動反応	機能3
森谷 幸誠	マルイ農業協同組合	溶媒蒸発法によるタウリン内包生分解性マイクロカプセルの調製	機能1
湯浅 芳志	(株)VSN	耐高温性微細藻類のスクリーニングと分離株の特性	生物2
吉村 ツエ	藤田立行ケルケルシヨス	光切断保護基を用いたシリカゲル表面へのポルフィリン発色団の導入	機能3
若松 周作	宮崎大学大学院	イオン交換法による酸化タングステンとの合成と界面活性剤添加による結晶成長抑制	機能2
外村 翼	ダイヤサポート(株)	界面活性剤共存下での水熱処理による酸化亜鉛微粒子の合成と形態制御	機能2
福丸 貴己	日本ポリウレタン工業(株)	アミン類を官能基とするポリスチレン樹脂の合成およびその陰イオン吸着特性	資源2
松田 健	宮崎大学大学院	軸配位結合を介した金属ポルフィリン二量体の蛍光挙動	機能3

## 年次別所感

### 郷土の誇り



有田 紘義 (昭和39年卒)

最近わが故郷鹿児島島の自慢話をする機会が多くなって来た。それも福岡に鹿児島県人会の集まりである南洲会というのがあり、その例会で時々酒を酌み交わしながら薩摩談義に耽るのである。更には新幹線が鹿児島まで走るようになったことで南九州が脚光を浴び「かこしま」の話題が尽きない。JR九州の観光宣伝であらうか、7S運動なる聴ききれないものまで耳にし、クイズ擬にSを言い当てている、このSなるものは西郷どん、桜島、焼酎、等 Sで始まる鹿児島にゆかりのある名物、おらが自慢を7つ答えるのであろうか、先の3Sは誰もがイメージするところであり愛着がありなる程と頷ける。しかしこれに新幹線・SPA(温泉)が加わることに至っては、胡散くさくいろいろな議論のあるところであろう。先日酒徒と居酒屋で郷土の誇れる人物は?ということになった。「数え切れない程、輩出しているわい」など言いながら酷評したものであるが、果たして相手は納得したかどうか。そこで本稿は改めてその時宜もつた我が郷土の尊敬する3人について述べてみたいと思う。

まずは西郷隆盛。鹿児島と言わず日本の歴史上の人物でいつの世でも誰からも敬愛される人物で異論はない。西南戦争・遺韓論についての歴史認識はいろいろ解釈されるが、それはさておき「敬天愛人」の言葉で広く知られている愛称「セゴドン」である。これは修正自己修養の目的と天命自覚の哲学として、その人生訓を説いたものであり、どこでもその書を見かける。天を敬い人を愛す自分を愛する心を持って他人を持って他人を愛せよと自らを厳しく律し、清廉で誠実な仁愛の人であったと言われる。このことは、後の戊辰戦争で薩長と戦い、又新政府軍に徹底抗戦したものの戦いに破れ降伏した庄内藩士たちが厳罰覚悟を決めこんでいたところを薩摩藩士黒田介が西郷の意を受け温情ある処置をしたことにく感激し「南洲翁遺訓」に「敬天愛人」という言葉を書き残している。

2人目は島津忠良(旧新公)である。450年前、加世田の城主として旧新公を名のり、神・儒・仏の3教をきわめ、文武の道に達し政治経済、文化あらゆる分野に善政をひいた薩摩の聖君と呼ばれた。5年の歳月をかけて「いろは」47文字を全て歌にして詠み道理を求むるに師弟教育の最高の經典となり、人々は皆これをそらんじる迄に勉強したという。

今加世田市竹田神社の境内に、まき並街道がありその47首が石塚に刻まれているが、その前に立つと先人に思いを馳せ心が洗われる。その冒頭の首が「いにしへの道を聴きても唱えても我が行いにはずば甲斐なし」と歌われ立派な聖賢の教えをいくら聴いても口先で唱えても自分で実行しなければ何の役にも立たない、成果が得られない。まさに行動あるのみである。現代の規制緩和、自由化が進む競合社会における営業哲学であり、企業の行動指針としての教科書でもある。西郷さんもこのいろは歌を学び日本の将来を見据えた多くの改革を成し遂げたのであろう。

3人目は平田鞆負(ゆきえ)。薩摩の老老として天保3年(1753年)徳川幕府より木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)の堤防工事を命じられ1000名近い薩摩武士を引き連れ任地に赴き見事にこれを成し遂げたのである。毎年河川氾濫で困窮する民を救うことが武士の本分と説得、藩論をまとめ縁もゆかりもないはるか遠い美濃まで赴き命がけでこの治水事業に取り組んだのである。人の道を外さない道徳の精神を教えて来た崇高なる思想に接し一同はただただ感涙したという。お家安泰を越えて民百姓の命を救うまさに薩摩武士のほまれを永く残した平田公、その生きざまは直木賞を受賞した杉本苑子の「孤愁の岸」に連綿と綴られている。これ迄に歌舞伎座等で何回ともなく上演され観る人の涙を誘う感動の物語である。一昨年岐阜の海津町に建立されている治水神社に詣で平田公の功績を称え遺徳を偲んで来たところである。以上3人を郷土の誇りとして紹介したがあくまでも鹿児島郷土教育に通じる、人文学の面からの人選であり、他についてはご勘弁願いたい。皆様方も是非一度郷土の先人について見つめなおしてみたいが、母校の発展、後輩の活躍を祈念しながら。

## 近況報告



瀬戸口 一稔 (平成3年卒)

バブル絶頂期の卒業年から14年が経過しようとしています。特にここ10年来の技術革新は目覚ましいものです。現在私は専攻外の分野で技術系の会社員(宮崎在住)として働いていますが、入社当時は複数人でしか使えなかったパソコンが、今となつては1人1台、必要不可欠な存在です。しかし、パソコンも然る事ながら家電製品は特に安くなったと感じます。日系企業の海外進出はあたり前のように、随分とグローバル化が進みました。

10年前は考えもしなかった事が、事実・現実として起こっています。比較的楽観的な私も、我が子の時代が本当に心配になります。杞憂ですかね？

さて、今年の宮崎は大変な年になりました。記憶にも新しい台風14号。我が家も避難、停電、断水を経験しましたが、一部の地域ではいたたまれない状況となりました。県外にお住まいの方も、TVの前で大変ご心配されたのではないのでしょうか？最近の台風は、コースも様々な上に、勢力の大きいものが目立つようになりました。地球温暖化の影響が少なからずあるはず。化学の知識を生かして、地球環境の為に少しでも貢献していきたいと思えます。

## みやざきはいま

# 台風14号直撃 大災害から復興へ

原田 繁利 (38年卒)

例年ですと、軽快なる文面のみやざきの観光スポットの探索を紹介しているが、今回は戦後最大級の災害をもたらした台風14号に触れないわけにはいきまい。

台風14号は太平洋中西部のマリアナ諸島で8月29日に発生し、勢力を強めてゆっくりと九州西岸を北上し、3日間で年間雨量の3分の1以上の1321ミリを記録した南郷村をはじめとして、県内各地で記録的豪雨となった。

その被害額は1000億円を超え、戦後最大級のつめ跡を残し、台風襲来から2ヶ月を過ぎた今も、各地で道路が寸断されている。

都城～日南間の道路は酒谷地域の橋が流出し、復興の目途さえ立っていない。宮崎～都城の幹線道路269号線も不通になって久しく急ピッチで復旧され、ようやく片側通行の目途が立ちつつある。

宮崎市内では濁流が流れ込んだ小松地域、高岡町では高台の町舎まで浸水する災害に見舞われ、宮崎市の南部一帯は断水、給水制限が1ヶ月も続いた。



国道10号線 高岡の大淀川氾濫水位

さて、暗い話から明るい話に戻りましょうか。

宮崎に天神の地下街がやってきた。



かわったのは、市中心部の閑古鳥が鳴くほどのまばらな人通りでしょうか。

宮崎はいま、中心部の復興が緊急課題となっているともいえる。

日曜祭日ともなるとどこから人がわきてたのか、数万人の人出でにぎわう。まるで天神の地下街が宮崎に移転してきたような風情だ。若者のファッションもほとんど変わらない。

ところで今年は、河野恵宜先生が退職された年でもありました。私と私の同級の岩倉由夫君は、河野先生と同じ宮崎大宮高校出身でもあり、何といても大学3、4年生当時は河野先生の研究室で大変お世話になりました。研究室配属後の最初の仕事が、自分の実験器具作り(ガラス細工)だったので今でも思い出します。6月の記念講演では、冗談を織り交ぜた楽しい講義を聴く事ができましたが、最後のご挨拶は感慨深いものがありました。研究室の先輩、後輩、同級生、教職員の方々とも久しぶりに会うことができ、記憶に残る1日でした。河野先生、本当にご苦労様でした。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍を祈念致します。

宮崎市から南へ、かつて新婚旅行のメッカでもあった青島では、大型ホテルの倒産もあり昔日の面影はない。

掘切峠から見る眼下の洗濯板に飛び散る白波の絶景を背景に写真撮影する若いカップルが最近急増している。

NHKのわか葉ブームの余韻か、また背後に新装なった道の駅の効果であろうか、ここだけは活気がよみがえっている。



道の駅 フェニックス

さらに南下すると鰹、マグロの漁業基地、目井津港に道の駅ならぬ「港の駅」がオープン、鰹、マグロ料理がグルメブーム、ヘルシイブームに乗ってか食堂は日曜、祭日ともなると長蛇の列、国道269号線の交通止めで青息途息のヘルスセンター青井岳荘、道の駅山之口とは自然災害が明暗をもたらしている。



魚料理に長蛇の列

前回まで民話のふるさと山間部を中心に紹介してきたが、山間部の交通の便が悪く北方面では、日本海軍発祥の地、神武天皇の御船出伝説の地、美々津に足を伸ばしてみた。神話、伝説の話題は次回として、大災害から復興へと活気もどりつつある宮崎の新装開店となった話題のスポットを三つ紹介した。



日本海軍発祥之地碑

自然に恵まれた宮崎、自然の猛威に弱さを露呈した宮崎、自然との調和を模索する戦いが今始まった宮崎に新しい魅力が生まれることを期待したい。

### あとがき

- ここに会報No.19をお届けします。ご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。
- 登本先生のご冥福をお祈りいたします。
- 国立大学法人に変わり2年目を迎えています。同窓生皆様のより一層のご支援をお願い致します。
- 今年も残り少なくなりました。皆様よりお年をお迎えくださいますよう心よりお祈り申し上げます。

平成17年12月 編集委員一同